



平成 30 年 11 月 30 日

「LGBTには生産性がない」というのは認識不足？ 公開シンポジウム「様々な家族のカタチ ～LGBTと家族形成～」開催

12月22日、岡山大学鹿田キャンパス臨床講義棟第1講義室にて、公開シンポジウム「様々な家族のカタチ ～LGBTと家族形成～」を開催します。

「LGBTには生産性がない」というのは認識不足であり、国内外のLGBT当事者は責任をもって子どもを育てています。本シンポジウムでは、LGBT（性的マイノリティ）当事者が子どもを持つことについての意識調査の結果を公表するとともに、当事者の視点、法的・倫理的な視点でデータを読み解きます。

「性のあり方の多様性を認める」ことは、「家族のあり方の多様性を認める」と密接につながっています。本シンポジウムは、さまざまな家族の形を知り、考え、議論を深めることを目的としています。

※7月7日に開催予定でしたが、西日本豪雨のため12月22日に延期となりました。

<開催概要>

1. 名 称 公開シンポジウム「様々な家族のカタチ ～LGBTと家族形成～」
2. 日 時 2018年12月22日（土）13：30～16：30
3. 場 所 岡山大学鹿田キャンパス 医学部臨床第1講義室（岡山市北区鹿田町2-5-1）
4. 対 象 者 どなたでも参加いただけます。（申し込み不要）
5. 参 加 費 用 無料

<内容>

「LGBTには生産性がない」という発言は認識不足であり、国内外のLGBT当事者は責任をもって子どもを育てています。しかし、LGBT（性的マイノリティ）への理解や支援が広がる中、日本において、依然として取り残されている課題として「LGBT当事者が子どもを持つこと」があります。本シンポジウムでは「LGBT当事者の家族形成」について議論します。

全国養子縁組団体協議会の白井千晶代表理事に、現在の日本において一般的に行われている里親、養子縁組、卵子提供、精子提供の事例を紹介していただくとともに、岡山大学大学院保健学研究科の中塚幹也教授が、全国の一般人や産婦人科医療施設の代表などを対象に行った「第三者が関与する生殖医療によって、LGBT当事者が子どもを持つこと」への意識調査、性同一性障害当事者の希望調査のデータを公表します。

さらに、現在、「家族になるための裁判」の当事者となっているトランスジェンダーの臼井崇来人（たかき一と）さんの考える「家族の条件」をお聞きした上で、岡山商科大学法学部の宍戸圭介教授、粟屋剛教授、本学大学院保健学研究科の于麗玲客員研究員が、「LGBTと家族形成」をめぐる法



PRESS RELEASE

的・倫理的課題を提示します。最後に、参加者も含めた総合討論で、これらの課題解決に向けて議論します。

※本シンポジウムの開催にあたり、平成 30 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 『配偶子凍結保存の増加「ライフプラン」「ジェンダー観」の変化に関する学際的研究』の助成を受けています。

<補足>

詳しい情報は、岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室ホームページをご参照ください。

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/>

◆研究者からのひとこと

GID (性同一性障害) 学会理事長として、性同一性障害当事者の戸籍の性別変更のための特例法の改正、性同一性障害のホルモン療法の保険適用などの課題解決に向かって活動中です。その中には「LGBT 当事者の家族形成」への支援があります。

また、現在、岡山市の「性の多様性」を認める条例づくりにも取り組んでいます。



中塚教授

<お問い合わせ>

岡山大学大学院保健学研究科

教授 中塚幹也

(電話番号・FAX) 086-235-6538

岡山大学大学院保健学研究科

「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム事務局

(電話番号・FAX) 086-235-6538



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を支援しています。